医療と宗教 ― 管見

元　東京大学総長　森（もり）　亘（わたる）

このたびのテーマ、すなわち私に対する設問は、フォーラムが、「生と死が手を結ぶには」、シンポジウムでは「医療者のみるいのち、宗教者の見るいのち」と伺いました。当然それらの舞台では患者を中心とした医療の現場であると考えられますので、私は手始めに、そのような場における医療者の役割が宗教者とどのような係わりをもっているのか、考えてみたいと思います。後半のシンポジュウムでは「いのちについて考える」として若干の意見を述べ、ご批判を仰ぎたいと存じます。